

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	8.環境にやさしい、安全・安心な暮らしの形成	安全な住環境を形成するため、日頃から市民・地域・行政の連携強化を図り、交通安全・防犯意識、地域防災力・防災意識を高めることにより、事故や事件を未然に防ぐとともに、災害時の被害を抑える安全・安心なまちづくりに取り組みます。
基本施策	8-1.防災・減災対策と安全対策の強化	
関連するプロジェクト	8.私から始める減災プロジェクト	

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
C

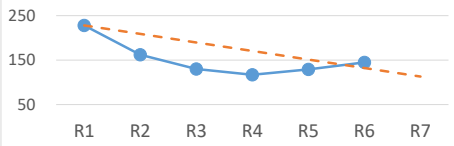

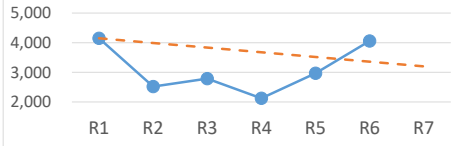
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

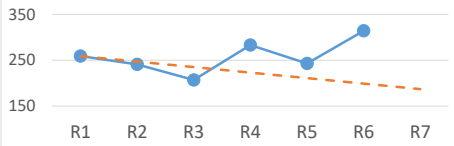
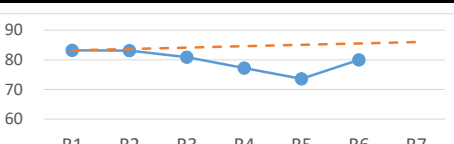
R6事後
17

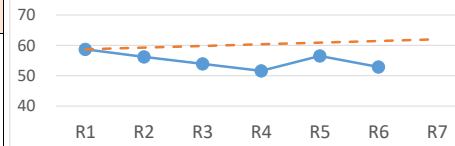
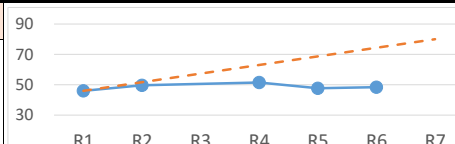
No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	まち づく り部		交通安全 対策の推 進	あらゆる世代を対象とした交通安全教育を実施するとともに、自己の身体能力を正しく理解できるよう参加、体験、実践型の交通安全教室を推進し、高齢者の事故防止対策を図る。また、信号機など交通安全施設の設置・改善について、積極的な取組を進めていく。	①	指標に基づく事実	・全体の人身事故発生件数は16件増加。 ・歩行者の人身交通事故件数は3件減少。 ・高齢者事故件数は13件増加。	B	指標に関する内容	・各地区の交通量が多い横断歩道において、交通指導員による啓発活動を実施。 ・幼児から高齢者までの幅広い世代を対象に、交通安全教室を104回実施。 ・交通事故の発生が多い薄暮時間帯において、ライト早め点灯活動を市内各地で実施。	指標に関する内容	・市内高齢者数が増加した。R5年4月:25,899人→R6年4月:31,403人(5,504名増) ・交通安全白書によると「一般的に加齢による身体機能や認知機能の変化が運動に影響を及ぼし、車両単独事故等の割合を高くしている」とあることから、高齢者数の増加に伴う事故件数への影響が危惧される。	◇高齢者向け実践体験型の交通安全教室実施 ◇反射材の配布活動や、ドライバーに対するライト早め点灯活動等の啓発活動強化 ◇◆来年度から自転車利用者に対する罰則が強化されることから、啓発や広報媒体配布による周知強化 ◆高齢者事故防止対策として、啓発映像の地域貸し出し促進
						指標以外の事実	各地区において、高齢者の事故防止対策として交通安全教室を実施し、啓発チラシや反射材等も交付した。	(B)	指標以外の内容	・モデル地区において、高齢者に対して、交通安全シミュレーション機材を活用した交通安全教室を実施。	指標以外の内容	・金ヶ崎線の路線廃止やバス本数の減少がしているため、高齢者の生活の足としての自動車運転機会が増加するため交通安全対策の必要性が高まっている。	
2	まち づく り部		防犯対策 の推進	地域や関係団体と連携・協力して見守り活動等を実施し、犯罪の起こりにくい環境を整えるとともに、特殊詐欺の手口や犯罪の被害状況、被害防止対策等を周知し、防犯意識の高揚を図る。また、暴力団追放の気運を高めるため、イベントや広報活動を推進する。	②	指標に基づく事実	刑法犯認知件数は、昨年に比べて増加した。 (R5:243件→R6:314件)	C	指標に関する内容	・防犯隊による定期的な巡回(109名、延べ1,362回)、少年センター少年補導員による補導活動(140回)、専任補導員による補導活動(448回)を実施した。	指標に関する内容	・侵入窃盗及び乗物盗の件数が上昇した。R5:49件→R6:117件(68件増) ・特に無施錠での乗物盗の件数が増加している。R5:24件→R6:73件(59件増) ・施錠被害件数は横ばいの事から、無施錠被害の増加が主な要因と考えられる。 ・コロナ禍での行動制限が緩和されたことが要因ではないかと考える。	◇◆乗り物の無施錠被害を減らすため、学校や駅駐輪場で鍵かけ点検及び啓発活動実施 ◇◆高齢者への特殊詐欺防止のため、防犯隊による高齢者訪問事業の実施 ◇◆暴力団追放のため、啓発活動の継続(飲食店訪問、広報誌の送付) ◇◆住宅の無施錠被害を減らすため、広報や訪問活動等を実施
						指標以外の事実	①特殊詐欺被害発生件数は、昨年に比べて増加した。(R5:3件→R6:4件) ②暴力団の市内進出は確認されていない。	(B)	指標以外の内容	・北上市防犯協会として、市内高齢者世帯4,676戸に対し、施錠推進や特殊詐欺被害防止訪問活動を実施した。 ・北上市地域安全推進市民会議により、暴力団追放活動として、飲食店への啓発や広報紙「暴追いわて」を配布した。	指標以外の内容	・全国的に匿名・流動型犯罪グループ(トクリュウ)、闇バイト、SNS詐欺等が増加している。 ・暴力団自体は暴力団追放の全国的な展開により減少している。	
3	福祉 部	●	災害時における避難支援体制の整備	個別避難支援計画を活用するなど地域の自主防災組織や民生委員等が連携を図り、避難支援体制を整える。福祉避難所について、介護保険施設等との協定締結を進める。	③	指標に基づく事実	年度末の避難行動要支援者同意者のうち地域支援者(協力者)が決まっている人の割合は52.9%であり、期待値を下回った。	C	指標に関する内容	・個別避難支援計画推進のため、名簿提供を同意した要支援者全員の個別プランを作成した。 ・自主防災組織や民生委員に個別プランを共有し、地域防災への活用や地域支援者の協力等、避難支援体制の連携を図った。 ・個別プランの新規作成や更新にあたり、地域支援者について周知を行い、避難行動要支援者近隣住民の地域支援者についての理解等の浸透に努めた。	指標に関する内容	・同意者に対する避難支援者の登録数が伸びなかった。 ・避難行動要支援者本人が、地域支援者を探して、承諾を得るには限界がある。 ・避難行動要支援者近隣住民の地域支援者についての理解等を図る取り組みが必要である。	◇要支援者本人や避難支援関係者等に理解を深めてもらうよう、広報や訪問を通した制度の周知活動を行う。 ◇協定未締結の介護事業所等に対して、福祉避難所への協力依頼及び福祉避難所再生可能エネルギー補助金を周知し、協定締結を促進する。  ◆避難行動要支援者本人が地域支援者を探すことには限界があることから、自主防災組織等の組織による支援や、スマホアプリ等を活用した支援体制を検討する。
						指標以外の事実	福祉避難所について、箇所数の増減はなかった。	(B)	指標以外の内容		指標以外の内容	・福祉避難所に協力可能な事業所についてはすでに協定を締結済であるが、その他の事業所については、人的不足や施設内のスペース等の要因により、協定締結が難しい状況にある。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	企画 部	●	防災力の 強化	防災訓練を実施し、その経験を共有しながら、市民や地域、事業者等がお互いに連携・協力して災害に対する備えや災害発生時に災害活動が行える体制を構築するとともに、独自の自主防災マスター制度により各地域の自主防災リーダーを育成し、地域防災力の向上を図る。 近年の激甚化する災害対応のため、防災計画、備蓄計画等の随時見直しを進め、避難者の受入体制強化を図る。	④⑥	指標に基 づく事 実  ④自主防災組織の防災訓練実施率の調査は、R7調査予定である。 ⑥市民意識調査「災害時の避難経路を知っている割合」は、前回(R5)よりも0.7%上がった。	B	指標に 関す る内 容  ④要請のあった自主防災組織の防災訓練に参加し、避難所開設運営訓練や、備蓄に関する啓発活動を支援した。 ⑥コロナ禍により控えていた出前講座や対面型の説明会などの機会を増やし、市民に向けた普及啓発に取り組むことが出来た。	指標に 関す る内 容  ⑥コロナ禍により縮小していた自主防災組織としての活動が再開し始めており、防災訓練や地域への啓発活動などの再開、それに向けた準備を進める動きがみられた。	◇北上市総合防災訓練の実施 ◇自主防災組織研修会の開催 ◇自主防災マスター認定者向け講習及び新規認定講習 ◇地域防災計画の修正 ◇ハザードマップの全戸配布、転入者等への配布 ◇ハザードマップの見方や活用方法など再周知ほか積極的な情報発信			
					指標以 外の 事 実  ・毎年開催している自主防災マスター講習会では、新規取得者34名、更新者62名が受講した。令和6年度末時点で、自主防災マスター認定者は174名、認定者が1人以上いる自主防災組織は113組織中103組織(充当割合91%)となった。 ・毎年1回開催している、市自主防災組織研修会では、鬼柳地区の防災訓練事例発表や水害時の自主防災活動の意見交換、水害対策の実技訓練等を行い、80人(57組織)の参加があった。 ・防災士養成研修は、7人が受講した。 ・市総合防災訓練は台風接近により中止した。	(B)		指標以 外の 内 容  ・自主防災マスター講習については、地域への働きかけ等を通じ、認定期間満了に伴い更新しない人もいる中で、昨年度と同じ充当割合を維持することが出来た。 ・県が主催する防災士養成研修について、自主防災組織から推薦された受講希望者の受講費を負担しており、受講希望者は増加している。	指標以 外の 内 容  近年多発する大雨による災害に対する自主防災組織の活動に関する研修としたことで関心も高く、多くの参加があった。				
5	企画 部	●	消防団の 強化	消防団員向けの各種支援策や地域の協力を得ながら地域防災の活動主体となる消防団員数の維持を図るとともに、消防演習や災害防御訓練等の訓練により災害対応力の向上を図る。	⑤	指標に基 づく事 実  前年度に比べて消防団員の確保率が6.4ポイント上昇した。	B	指標に 関す る内 容  ・消防団員の確保に向けて、周知(チラシ作成、ポスター掲示等)や団員へ協力を依頼した。 ・消防団員の再入団や退団者の受け皿となる機能別消防団員制度を導入し、消防団員の維持を図った。	指標に 関す る内 容  ・就業構造の変化や人口減少により、消防団員の担い手が不足している。	◇消防団員の担い手確保 ◇消防団活動状況や魅力の発信 ◇消防団員の負担軽減策(行事の見直し等)の検討 ◇消防団員の処遇改善策の検討 ◇訓練等を定期的に実施し、災害対応力を強化 ◇DXの推進			
				指標以 外の 事 実  ・消防演習、消防操法競技会や災害防御訓練を実施し災害対応力の向上を図った。 ・北上市消防団協力事業所として登録されている10事業所の認定を更新した。 ・消防団応援の店として2事業所を新規登録した。	(B)	指標以 外の 内 容  ・消防演習及び災害防御訓練については、効果的な訓練等となるよう、内容及び実施方法を工夫した。 ・広報等により、消防団応援の店の募集を行った。		指標以 外の 内 容					
6	企画 部		消防力の 維持・強 化	計画的な消防車両の更新、建物の維持管理により、消防・救急体制の維持・強化を図るとともに、救急救命講習等を普及させることにより救急車が到着するまでの間の応急手当能力の向上を図る。 また、消防団車両、消防屯所の計画的な更新を行うとともに、消防水利の維持管理に取り組み消防力の維持を図る。	⑤⑦	指標に基 づく事 実  ・前年度に比べて救急救命講習の受講者数は1,092名増加し、期待値を上回った。	A	指標に 関す る内 容  ・救急救命講習の普及に向けて、市や北上地区消防組合の公式ホームページ、SNS等で周知した。	指標に 関す る内 容  ・新型コロナウイルス感染症の収束により、コロナ禍以前の水準まで救急救命講習の受講者が増加した。	◇消防団車両、消防屯所の計画的な更新 ◇消防水利の維持管理			
				指標以 外の 事 実  ・消防屯所1棟、ホースポール1箇所を整備したほか、3台の消防団車両を更新した。 ・関係部署と調整し、消防水利の計画的な施設整備(消火栓5基)を図った。	(B)	指標以 外の 内 容  消防力維持のため、計画的に消防団車両や消防水利の必要な修繕や更新を行った。		指標以 外の 内 容					

凡例    ●実績値    —期待値

指 標 ①		指標の説明									
交通事故(人身)発生件数		各年1～12月における交通事故(人身事故に限る)の発生件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	件	実績値	228	162	130	117	129	145			
		期待値 ※R7は目標値	228	209	190	171	151	132	113		
		備 考									
指 標 ④		指標の説明									
自主防災組織の防災訓練実施率		防災訓練や防災学習(ハザードマップの見方)等を実施している自主防災組織数／全自主防災組織数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	%	実績値	60.2	61.8		48.7					
		期待値 ※R7は目標値	60.2	61.8	63.5	65.1	66.7	68.4	70		
		備 考			未実施	R5調査実施	未実施	R7調査予定			
指 標 ⑦		指標の説明									
救急救命講習受講者数		消防組合が開催する救急救命講習の受講者数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	人	実績値	4,149	2,521	2,786	2,123	2,967	4,059			
		期待値 ※R7は目標値	4,149	3,991	3,833	3,675	3,516	3,358	3,200		
		備 考									
指 標 ⑩		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑬		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									

指 標 ②		指標の説明									
刑法犯認知件数		各年1～12月における刑法犯認知件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	件	実績値	259	241	207	283	243	314			
		期待値 ※R7は目標値	259	247	235	223	211	199	187		
		備 考									
指 標 ⑤		指標の説明									
消防団員の確保率 (団員数／条例定数)		条例定数に対する在籍消防団員数の割合(当該年度末時点)									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	%	実績値	83.2	83.1	80.9	77.2	73.6	80.0			
		期待値 ※R7は目標値	83.2	83.7	84.1	84.6	85.1	85.5	86.0		
		備 考									
指 標 ⑧		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑪		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑭		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									

指 標 ③		指標の説明									
避難行動要支援者同意者のうち地域支援者が決まっている人の割合		年度末の避難行動要支援者同意者のうち地域支援者(協力者)が決まっている人の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
福祉部	%	実績値	58.7	56.2	53.9	51.6	56.5	52.9			
		期待値 ※R7は目標値	58.7	59.3	59.8	60.4	60.9	61.5	62.0		
		備 考									
指 標 ⑥		指標の説明									
災害時の避難経路を知っている割合(市民意識調査)		市民意識調査で知っていると回答した人数／市民意識調査の回答者数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	%	実績値	46.0	49.7		51.5	47.7	48.4			
		期待値 ※R7は目標値	46.0	51.7	57.3	63.0	68.7	74.3	80.0		
		備 考			未実施						
指 標 ⑨		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑫		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑮		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									